

「IC で学んで」

3年 ICB 組 男子

3年前、国際文化コースに入る前の私なら「ありがとう」を英語でどのように表現したでしょうか。“Thank you.”や“I appreciate for ~”といった表現が思いついたのではないのでしょうか。今の私なら、「それはどのような場面においてですか？」と聞き返します。これには理由があります。本当に自然な感謝の気持ちの表現は場面によって変わってくるというのが私の考えだからです。

私が初めてこの考えを持ちはじめたのは1年生でのニュージーランド留学のときです。ある日私は、近くの楽器店へとドラムスティックを買いに行きました。品物をレジへ持っていき、代金を支払い終わると私は、「きっと“Thank you.”と言われるんだろう。」と少しも疑いもせず思いました。しかし、実際に聞こえてきた言葉は想像と全く違うものでした。店員は、“Enjoy the music.”と声をかけたのです。この文章そのものに感謝の意味はないでしょう。しかし、楽器を買った客に店員が声をかけたという場面という前提があれば、感謝の意味がこもっているのは明らかです。よく英語のEssayを書くとき、アダムソン先生が「何を表したいのかハッキリさせなさい。」と仰っていました。ですから、感謝の対象を明確に表すこのような表現は、欧米的な感覚・文化なんだと思います。実際、日本のレストランで「ごゆっくりお食事をお楽しみ下さい。」と言われると、肩が凝ってしまうのではないのでしょうか。背景にある文化が、言語の表現に影響を与える。言葉を学ぶ上で、大切な考え方の一つだと思います。他言語を学ぶとき、どうしても新しい単語を覚えたり、発音を学んだりすることばかりに集中しがちですが、なぜ、ある表現がある意味を持つのか、それは時に文化を知らずにはわからないことも多いと思います。これこそが、西高のICコースが言語ばかりでなく、その名の通り文化を学ぶ理由の一つだと私は考えています。

この先も私は英語を、そして様々な文化を学び、ゆくゆくはその経験を活かして社会へ貢献したいと思っています。私と言葉の関わりが西高の国際文化コースで始まり、そして多くの気づきと学びとともに次のステップへと進んでいけることは私にとって何よりの財産であり、誇りです。そして、このように今感じているからこそ、3年間の国際文化コースでの毎日に関わるICスタッフや担任の先生方、課外授業で協力して頂いた全ての方など多くの方々へ、それぞれが私たちの為にして下さったことに「ありがとう」という言葉を残していきたいと思っています。